

SBIインド & ベトナム株ファンド

追加型投信/海外/株式

交付運用報告書

第22期(決算日:2018年6月4日)

作成対象期間(2017年12月5日~2018年6月4日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、「SBIインド&ベトナム株ファンド」は、2018年6月4日に第22期の決算を行いました。

当ファンドは、主としてマザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの株式等に投資し、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。ここに期中の運用状況と収益分配状況についてご報告申し上げます。

今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

第22期末(2018年6月4日)

基準価額	10,963円
純資産総額	10,233百万円
第22期	
騰落率	△2.0%
分配金(税込み)合計	0円

(注1) 騰落率は分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したものです。

(注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注3) 当報告書における比率は、表示桁未満を四捨五入しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書(全体版)に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書(全体版)に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書(全体版)は、右記ホームページにて閲覧・ダウンロードいただけます。

○運用報告書(全体版)は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

<運用報告書(全体版)の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス⇒「ファンド情報」⇒「当該ファンド」を選択⇒「目論見書・定期レポート等」を選択⇒「運用報告書(全体版)」より該当の決算期を選択ください。

 SBI Asset Management

SBIアセットマネジメント株式会社

東京都港区六本木 1-6-1

お問い合わせ先

電話番号 03-6229-0097

受付時間: 営業日の 9:00~17:00

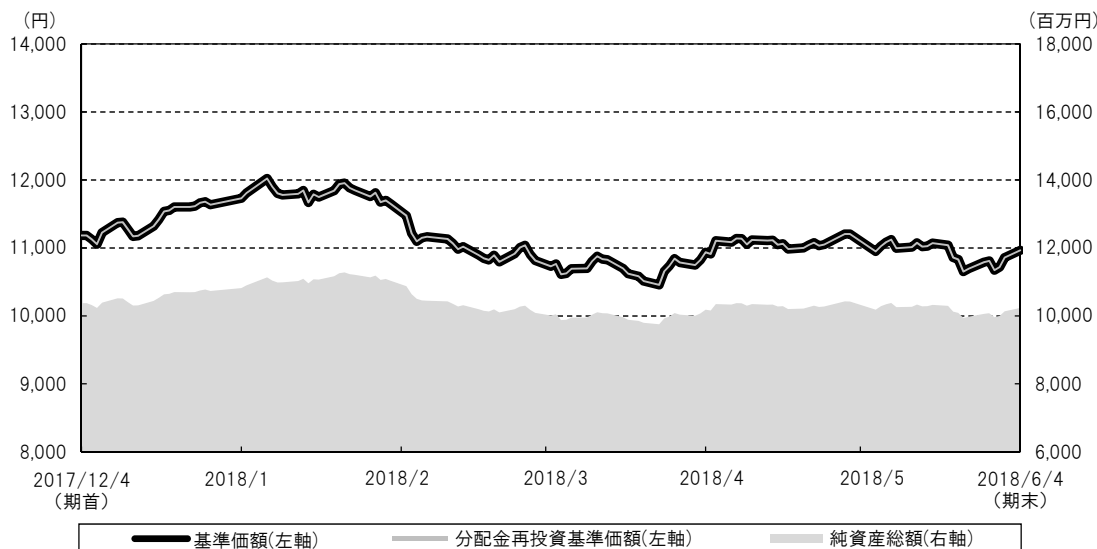
ホームページから、ファンドの商品概要、レポート等をご覧いただけます。

<http://www.sbiam.co.jp/>

運用経過

基準価額等の推移

(2017年12月5日～2018年6月4日)



期 首：11,182 円

期 末：10,963 円 (既払分配金(税込み):0 円)

騰 落 率：△2.0% (分配金再投資ベース)

- (注1) 当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していません。
- (注2) 分配金再投資基準価額は、収益分配金(税込み)を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注3) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注4) 分配金再投資基準価額は、期首(2017年12月4日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

○基準価額の主な変動要因

当期の基準価額は、インド、ベトナム両株式市場が上昇したものの、その後は両市場が反落したことや外国為替市場で円高が進行したことにより、若干下落しました。1月上旬にかけては、インド、ベトナム両市場の株高に加えて、通貨インドルピーやベトナムドンが対円で上昇したことなどを受け、当ファンドの基準価額は2018年1月9日に当期の最高値である12,021円を付けました。しかし、2月以降は、米長期金利の急騰を発端とした株安に伴い、リスク回避の円高が進行したことから、当ファンドの基準価額は軟調に推移しました。3月下旬にベトナム市場は過去最高値を更新したものの、インド市場の下落や円高が継続したことから、当ファンドの基準価額は2018年3月26日に当期の最安値である10,456円を付けました。その後は、ベトナム市場が急落したものの、インド市場が底打ちしたことから、当ファンドの基準価額は緩やかながらも反発基調となりました。期末にかけては、米利上げに伴う新興国通貨安により、通貨インドルピーが対円で下落したことなどから、当ファンドの基準価額もやや下落しました。当期末の基準価額は10,963円となり、期を通じてみると、△2.0%の下落となりました。

1 万口当たりの費用明細

(2017年12月5日～2018年6月4日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬 (投 信 会 社) (販 売 会 社) (受 託 会 社)	円 120 (73) (42) (5)	% 1.077 (0.657) (0.377) (0.043)	(a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	4 (4)	0.036 (0.036)	(b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ※売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料です。
(c) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	3 (3)	0.027 (0.027)	(c)有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ※有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金です。
(d) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (監 査 費 用) (そ の 他)	14 (6) (1) (7)	0.129 (0.054) (0.010) (0.064)	(d)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 保管費用は、海外における保管銀行に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用 インド株式の売買益におけるキャピタルゲイン課税等、信託事務の処理等に要するその他費用
合 計	141	1.269	
期中の平均基準価額は11,148円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料、有価証券取引税及びその他費用は、当ファンドが組入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたものです。

(注4) 各項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注5) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券(マザーファンドを除く。)が支払った費用を含みません。

当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示しております。

最近5年間の基準価額等の推移

(2013年6月4日～2018年6月4日)



- (注1) 分配金再投資基準価額は、収益分配金（税込み）を分配時に再投資したとみなして計算し、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注2) 分配金の再投資についてはお客様がご利用のコース等により異なります。また、ファンドの運用経過については、当ファンドのパフォーマンスを示したものであり、ファンドの購入価額により課税条件等が異なるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注3) 分配金再投資基準価額は、2013年6月4日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2013年6月4日 決算日	2014年6月4日 決算日	2015年6月4日 決算日	2016年6月6日 決算日	2017年6月5日 決算日	2018年6月4日 決算日
基準価額 (円)	5,843	6,892	8,824	7,901	9,887	10,963
期間分配金合計(税込み) (円)	0	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	47.8	18.0	28.0	△ 10.5	25.1	10.9
SENSEX 指数騰落率 (%)	53.1	24.6	21.6	△ 18.3	26.0	7.4
VN 指数騰落率 (%)	53.2	10.4	20.7	△ 7.8	21.3	31.6
純資産総額 (百万円)	9,077	8,574	10,390	8,317	9,799	10,233

- (注1) 当ファンドは、特定のベンチマーク及び参考指数等は採用していないため、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として、インドでは SENSEX 指数[※]、ベトナムでは VN 指数[※]を記載しております。
- (注2) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。
- (注3) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。
- ※各指数は円建て

●代表的な指数に関して

- ・SENSEX 指数は、インドのムンバイ証券取引所に上場する銘柄のうち、流動性・取引規模・業種等を代表する 30 銘柄で構成された時価総額加重平均指数のことで、インド株式市場の代表的な株価指数です。
- ・VN 指数は、ベトナムの最大都市ホーチミンにあるホーチミン証券取引所に上場の全銘柄から構成される時価総額加重平均指数のことで、ベトナム株式市場の代表的な株価指数です。

投資環境

(2017年12月5日～2018年6月4日)

○インド株式市場

(2017年12月)

・州議会選挙の与党勝利を背景に資金流入が強まり、上昇基調となりました。

(2018年1月)

・経済成長率の回復見通しを受けて投資家心理が上向き、過去最高値を更新しました。

(2月)

・米国の長期金利の急騰を発端とした世界同時株安に加えて、国家予算案で長期キャピタルゲイン課税の導入が決定されたことも、株式相場の重石となりました。

(3月)

・海外機関投資家の売り越しが続いたことから、軟調推移が継続し、続落しました。

(4月)

・インド企業の業績見通しの改善などを受けて、反発基調となりました。

(5月)

・原油高による企業収益への悪影響や通貨安を警戒したインド準備銀行の利上げ観測などが嫌気され、反落しました。

○ベトナム株式市場

(2017年12月)

・外国人投資家の買い越しや上場投資信託(ETF)への資金流入により、時価総額上位銘柄が指数を押し上げ、年初来高値を更新しました。

(2018年1月)

・好調な経済成長や金利水準の安定、大手企業の新規上場、外国人投資家による買い越し等を受けて、続伸して取引を終えました。

(2月)

・米国の長期金利の急騰を発端とした世界同時株安に加えて、外国人投資家が売り越しに転じたことから、前月末比で反落しました。

(3月)

・時価総額の大きい主力株への買いが続いたことから、2007年以来、約11年振りに過去最高値を更新しました。

(4月)

・過去最高値を更新後、中旬以降は高値更新の反動から売りが優勢となり、大幅反落となりました。

(5月)

・米国長期金利の急騰により新興国全般に対する懸念が強まり、信用取引の解消売りなど資金流出が続いたことから、大幅続落となりました。

当ファンドのポートフォリオ

(2017年12月5日～2018年6月4日)

＜当ファンド＞

「ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」といった各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行いました。

＜LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は96.4%となっております。

＜ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドにより、インドの証券取引所で上場または取引されている株式の中から収益性や成長性等を総合的に勘案し厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は97.8%となっております。

＜SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

インドの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式の組入比率に関しては、95%以上の株式組入比率を維持しました。期末の株式組入比率は99.2%となっております。

＜SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式等を主要投資対象とし、収益性や成長性及び流動性等を総合的に勘案した銘柄に厳選投資いたしました。

株式等の組入比率に関しては、90%以上の組入比率を維持しました。期末の株式等の組入比率は99.7%となっております。

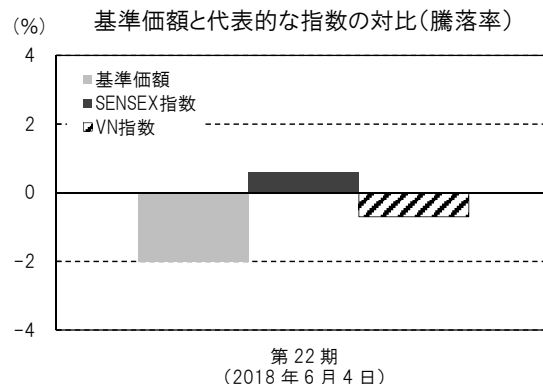
当ファンドのベンチマークとの差異

(2017年12月5日～2018年6月4日)

当ファンドは、マザーファンド受益証券への投資を通じてインド及びベトナムの2カ国の株式等に投資するファンドのため、ベンチマークは採用していません。

また、適当な参考指数もないことから当ファンドの基準価額と、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数としてインドでは SENSEX 指数[※]、ベトナムでは VN 指数[※]を記載しております。

※各指数は円建て



分配金

(2017年12月5日～2018年6月4日)

当期は、当ファンドの収益分配方針に基づき、収益分配可能額を算出し、市況動向や基準価額等を考慮した結果、当期の収益分配は行わないことといたしました。

収益分配に充てなかった利益につきましては、信託財産に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

(単位:円、1万口当たり、税込み)

項目	第22期
	2017年12月5日～ 2018年6月4日
当期分配金	—
(対基準価額比率)	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	2,273

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金(税込み)と一致しない場合があります。

今後の見通しと運用方針

<当ファンド>

引き続き「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」の各受益証券を通じ、主としてインド及びベトナムの株式等に投資を行い、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行ってまいります。

<LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるLGM・インベストメンツ・リミテッドは以下のようにコメントしています。

世界第7位の経済規模を持つインドは、「真の」新興国市場です。1人当たりGDPは2,000ドルを下回っているものの、経済の急成長は続いています。健全な民主主義や効果的な政策決定に加えて、好ましい人口動態やマクロ経済の改善は、インド経済や株式市場の見通しを長期的に下支えしています。我々は、引き続きインドには長期的な投資機会があり、質の高いインド企業は魅力的な投資先と考えています。

我々の短期的な投資戦略は、インドの長期的な成長見通しを捉えるものになっています。引き続きボトムアップ・アプローチにより質の高いインド企業への長期投資に注力する方針です。我々は、投資先企業の質を重視する投資哲学やボトムアップ・アプローチを採用し、国内重視のインド企業を選好していることから、生活必需品、一般消費財関連、金融の組入比率を高め、エネルギー、公益事業、ヘルスケア、IT、通信の組入比率を低下させています。

<ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)>

運用の再委託先であるSBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドは以下のようにコメントしています。

インドの2018年1-3月期のGDP成長率は前年同期比+7.7%の伸びをみせ、4月以降の経済活動も健全な水準になっています。当四半期の総固定資本形成は前年同期比+14%増と加速するなど、公的部門と民間部門を合わせた投資は緩やかに回復しています。2018年度の成長率は、前年の数値が比較的低調だったことによるベース効果、高額紙幣廃止の混乱や物品・サービス税導入の影響の一巡、景気の循環的回復などから、前年比+7.5-7.6%まで回復するとみられています。

2018年1-3月期におけるニフティー指数構成企業の税引き後利益は、市場予想を大きく下回る前年同期比+5.1%増に留まりました。とは言え、利益の質は比較的良好であり、自動車、消費関連、消費者金融といった業種の大半の企業は、健全な伸び率を記録しました。2018年度のニフティー指数構成企業の増益率は、成長率加速の追い風や貸出残高の伸びに下支えされ、前年度比+19%増になると予想しています。

インド市場のバリュエーションは依然として過去平均と比べれば相対的に高い水準にあるものの、直近の株価下落や日柄調整に伴い、割高感はやや薄れてきています。

今後3-6カ月間並びに今後1年間のインド株式市場の見通しに関して、我々は前向きな見方をしています。我々は引き続きボトムアップ・アプローチによる銘柄選定に注力していきます。

＜SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

州議会選挙の与党勝利や経済成長率の加速などが好感されたものの、原油高などが相場の重しとなり、直近は一進一退の展開となっています。今後の見通しとしては、インフレ抑制のための利上げが見込まれるものの、インド企業の収益は底打ちしつつあり、引き続き高水準の成長率が続くと思込まれます。足元では海外機関投資家の資本流入が鈍化したものの、インド国内の投資家によるインド株の買い越し基調が継続していることから、中長期的には緩やかに上昇していく展開が想定されます。

以上の見通しにより、インド株を主要投資対象とする上記の各受益証券については、対純資産比率で80%前後の組入比率を目標として運用する方針です。

＜SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)＞

ベトナム経済は引き続き好調を維持しており、比較的若い人口動態や低コストの労働力を強みとして、前年比+5-6%台の高成長が続く見込みです。ベトナム株式市場は、過去最高値を更新後に一旦調整しましたが、高成長低インフレの実現により、中長期的には上昇基調が継続すると予想されます。

以上の見通しにより、当面は対純資産比率で10-15%前後の組入比率で運用を行います。必要に応じて、銘柄入れ替えを行いながら運用する方針です。

※上記見通しと運用方針のうち、「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」および「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」については、それぞれ運用の再委託会社である LGM・インベストメンツ・リミテッド、SBI・ファンズ・マネジメント・プライベート・リミテッドからのコメントを SBI アセットマネジメントにて和訳したものを記載しております。

お知らせ

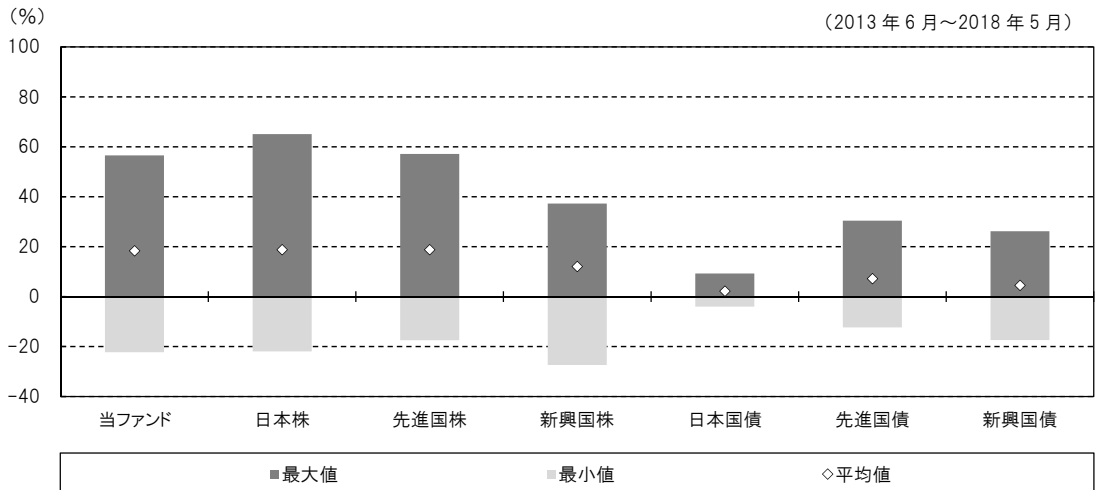
該当事項はありません。

当ファンドの概要

商品分類	追加型投信／海外／株式	
信託期間	原則として無期限(クローズド期間はありません)	
運用方針	ファミリーファンド方式により、信託財産の中長期的な成長をめざして運用を行います。	
主要投資対象	当ファンド	「LGM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」、「SBIAM インド株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」及び「SBIAM ベトナム株・マザーファンド(適格機関投資家専用)」受益証券(以下「マザーファンド」といいます。)を主要投資対象とします。
	L G M インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	ステイト・バンク・オブ・ インド インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	S B I A M インド株・ マザーファンド	インドの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)を主要投資対象とします。
	S B I A M ベトナム株・ マザーファンド	ベトナムの証券取引所で上場または取引されている株式(預託証券を含みます。)ならびに当該株式の値動きに連動する債券、新株引受権証券等を主要投資対象とします。
当ファンドの 運用方法	各マザーファンドを通じて主にインド及びベトナムの株式に投資を行います。マザーファンドへの投資割合には制限を設けません。ベトナム株への実質的な投資割合は、信託財産の純資産総額の30%以下とします。外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産において、原則為替ヘッジは行いません。	
分配方針	毎決算時に、基準価額水準及び市場動向等を勘案して分配を行います。ただし、分配対象額が少額の場合等、委託者の判断により収益分配を行わないこともあります。	

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位:%)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	56.5	65.0	57.1	37.2	9.3	30.4	26.1
最小値	△ 22.2	△ 22.0	△ 17.5	△ 27.4	△ 4.0	△ 12.3	△ 17.4
平均値	18.4	18.8	18.8	12.1	2.2	7.2	4.5

(注1) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注2) 2013年6月から2018年5月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注3) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注4) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株:東証株価指数(TOPIX)(配当込み)

先進国株:MSCI KOKUSAI(コクサイ)・インデックス(配当込み、円ベース)

新興国株:MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)

日本国債:NOMURA-BPI 国債

先進国債:FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)

新興国債:JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)

※海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

※各指数についての詳細は、最終ページをご参照ください。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2018年6月4日現在)

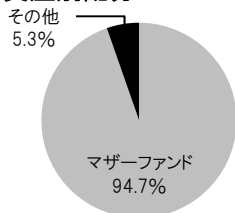
○組入上位ファンド

銘柄名	第22期末
	%
LGM インド株・マザーファンド	38.7
ステイト・バンク・オブ・インド インド株・マザーファンド	38.9
SBIAM インド株・マザーファンド	2.8
SBIAM ベトナム株・マザーファンド	14.2
組入銘柄数	4銘柄

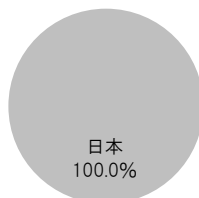
(注1) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

(注2) 全銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

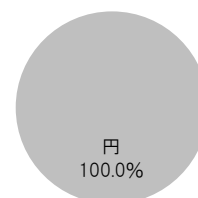
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注1) 資産別・通貨別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注2) 国別配分は組入株式評価額に対する比率です。

純資産等

項目	第22期末
	2018年6月4日
純資産総額	10,233,771,897円
受益権総口数	9,335,049,390口
1万口当たり基準価額	10,963円

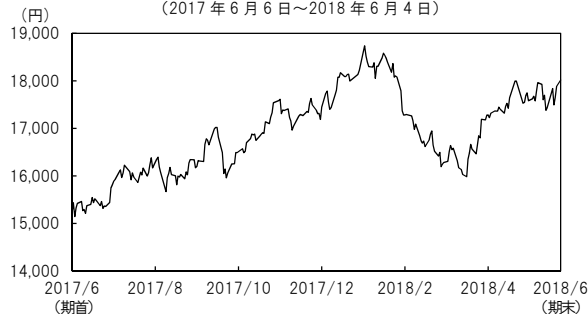
(注) 期中における追加設定元本額は1,310,152,957円、同解約元本額は1,251,382,876円です。

組入上位ファンドの概要

LGM インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年6月6日～2018年6月4日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年6月6日～2018年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	6 (6)	0.033 (0.033)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	9 (9)	0.051 (0.051)
(c) その他費用 (保 管 費 用) (そ の 他)	14 (14) (0)	0.080 (0.080) (0.000)
合 計	29	0.164

期中の平均基準価額は、16,952円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位 10 銘柄】

(2018年6月4日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	HDFC銀行	銀行	インドルピー	インド	6.2
2	ITC	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	5.7
3	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	5.6
4	コタック・マヒンドラ銀行	各種金融	インドルピー	インド	5.6
5	イエス銀行	銀行	インドルピー	インド	5.1
6	ネスレ・インド	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	4.8
7	HDFC	銀行	インドルピー	インド	4.4
8	コルゲート・パルモリーブ	家庭用品・パーソナル用品	インドルピー	インド	4.3
9	インダスインド銀行	銀行	インドルピー	インド	4.3
10	ヒンドウスタン・ユニリーバ	家庭用品・パーソナル用品	インドルピー	インド	4.0
	組入銘柄数		26 銘柄		

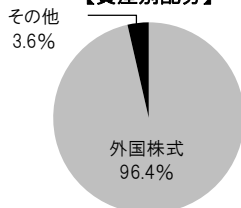
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

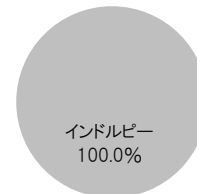
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位 10 銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは 2018 年 6 月 4 日現在のものです。

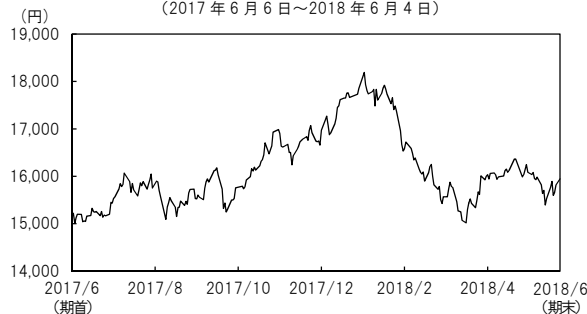
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

ステイト・バンク・オブ・インディア インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年6月6日～2018年6月4日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年6月6日～2018年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
	円	%
(a) 売買委託手数料 (株式)	32 (32)	0.199 (0.199)
(b) 有価証券取引税 (株式)	28 (28)	0.174 (0.174)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	132 (23) (109)	0.815 (0.142) (0.673)
合計	192	1.188

期中の平均基準価額は、16,167円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2018年6月4日現在)

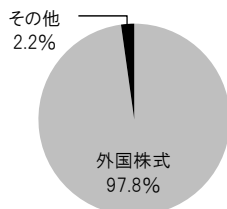
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インドルピー	インド	6.7
2	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	5.9
3	HDFC	銀行	インドルピー	インド	4.4
4	アクシス銀行	銀行	インドルピー	インド	4.3
5	マルチ・スズキ・インディア	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	4.1
6	タタ・コンサルタンシー・サービスズ	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	3.8
7	インドステイト銀行	銀行	インドルピー	インド	3.7
8	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	3.4
9	ブハルティ・エアテル	電気通信サービス	インドルピー	インド	3.2
10	バジャジ・ファイナンス	各種金融	インドルピー	インド	2.7
	組入銘柄数		62銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

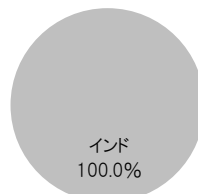
(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

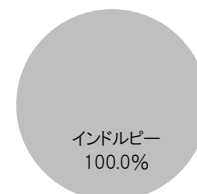
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2018年6月4日現在のものです。

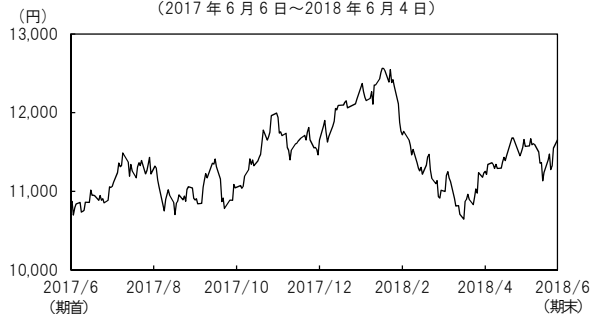
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBIAM インド株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年6月6日～2018年6月4日)



【1万口当たりの費用明細】

(2017年6月6日～2018年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株式)	36 (36)	0.314 (0.314)
(b) 有価証券取引税 (株式)	18 (18)	0.160 (0.160)
(c) その他費用 (保管費用) (その他)	78 (78) (0)	0.681 (0.681) (0.000)
合計	132	1.155

期中の平均基準価額は、11,416円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2018年6月4日現在)

	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
1	HDFC銀行	銀行	インドルピー	インド	12.3%
2	HDFC	銀行	インドルピー	インド	8.9
3	リライアンス・インダストリーズ	エネルギー	インドルピー	インド	8.5
4	インフォシス	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	6.7
5	ITC	食品・飲料・タバコ	インドルピー	インド	6.5
6	ICICI銀行	銀行	インドルピー	インド	5.2
7	タタ・コンサルタンシー・サービスズ	ソフトウェア・サービス	インドルピー	インド	5.0
8	ラーセン&トウプロ	資本財	インドルピー	インド	4.8
9	コタック・マヒンドラ銀行	銀行	インドルピー	インド	4.4
10	マルチ・スズキ・インドア	自動車・自動車部品	インドルピー	インド	3.4
組入銘柄数			32銘柄		

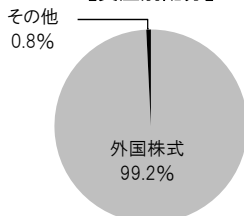
(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

※HDFC銀行はHDFCのグループ企業です。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2018年6月4日現在のものです。

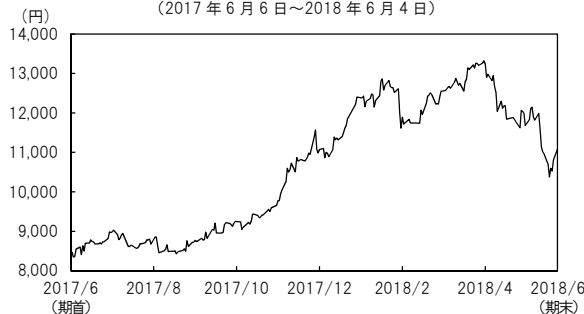
(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

SBIAM ベトナム株・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2017年6月6日～2018年6月4日)



【1万円当たりの費用明細】

(2017年6月6日～2018年6月4日)

項目	当期	
	金額	比率
(a) 売買委託手数料 (株 式)	58 (58)	% (0.544)
(b) 有価証券取引税 (株 式)	7 (7)	0.068 (0.068)
(c) その他費用 (保 管 費 用)	14 (14)	0.130 (0.130)
合 計	79	0.742

期中の平均基準価額は、10,698円です。

(注) 上記項目の概要につきましては、P2をご参照ください。

【組入上位10銘柄】

(2018年6月4日現在)

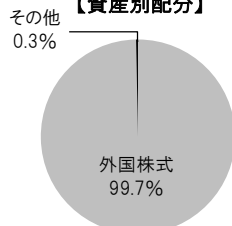
	銘柄名	業種/種別等	通貨	国(地域)	比率
					%
1	ベトナム乳業	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	16.1
2	ピンググループ	不動産	ベトナムドン	ベトナム	13.5
3	ベトナムバンク	銀行	ベトナムドン	ベトナム	7.9
4	ベトナム航空総公社	運輸	ベトナムドン	ベトナム	6.8
5	ペトロベトナムガス	公益事業	ベトナムドン	ベトナム	6.5
6	サイゴンビール・アルコール	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	6.3
7	マサングループ	食品・飲料・タバコ	ベトナムドン	ベトナム	4.6
8	ベトナムバンク	銀行	ベトナムドン	ベトナム	4.0
9	ホアファットグループ	素材	ベトナムドン	ベトナム	3.8
10	ベトナム石油総公社	エネルギー	ベトナムドン	ベトナム	3.8
組入銘柄数			21 銘柄		

(注1) 比率は、純資産総額に対する割合です。

(注2) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載しております。

(注3) 国(地域)につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

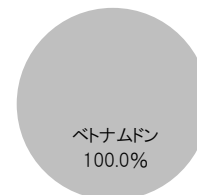
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 基準価額の推移、組入上位10銘柄、資産別・国別・通貨別のデータは2018年6月4日現在のものです。

(注2) 資産別配分の比率は純資産総額に対する割合です。

(注3) 国別・通貨別配分は組入株式評価額に対する比率です。

＜代表的な資産クラスとの騰落率の比較に用いた指数の著作権等＞

代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに株式会社野村総合研究所が計算しており、SBIアセットマネジメントはその内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。また、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害及び一切の問題について、何らの責任も負いません。

○東証株価指数(TOPIX)(配当込み)は、東京証券取引所第一部に上場している国内普通株式全銘柄を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、TOPIX に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

○MSCI KOKUSAI インデックス(配当込み、円ベース)は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○MSCI エマージング・マーケット・インデックス(配当込み・円ベース)は、MSCI inc.が開発した、世界の新興国の株式対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、MSCI Index に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。

○NOMURA-BPI 国債は、野村證券株式会社が発表している日本の国債市場の動向を的確に表すために開発された投資収益指数です。なお、NOMURA-BPI 国債に関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社に帰属します。

○FTSE 世界国債インデックス(除く日本、円ベース)は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、FTSE 世界国債インデックスに関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。

○JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド(円ベース)は、J.P.Morgan Securities LLC が算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、JP モルガン・ガバメント・ボンド・インデックス-エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイドに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P.Morgan Securities LLCに帰属します。